

【別紙】

一般社団法人 日本ボクシング連盟 令和3年度 第4回理事会（緊急）別添資料
2021.8.29（日）20:00～22:30

会長挨拶：お忙しい時間帯に集まっておいただきありがとうございます。
最後までよろしくお願ひいたします。

1 議事の経過の要領及び議案審議の結果

1) 決議事項

- ・ COVID-19 の感染拡大に伴い国体が中止された事に伴う、今後の大会の開催の可否などについて

仲間専務理事：国体が中止になり。予選もすべて停止した。現在は各ブロックで全日本選手権の予選が予定されている。また世界選手権の選考会も予定している。11月の感染状況が読めない状況ではあるが、多くの問い合わせもあり今回の緊急理事会を開かせていただいた。各ブロックの予選日程や総務委員会、医事委員会の意見を聞いたうえで審議してもらい何らかの決議を行いたい。

坂巻議長：総務委員会からお願いします。

池端理事：総務委員会としては2年連続全日本選手権が開催されないことになると、今後の代表選考等にも問題がでてくるので、できれば開催の方向でお願いしたい。先般、行われたインターハイのガイドラインを参考に、実行委員会の方で感染対策の基本方針を出していただき、ブロック予選も準じた形で行ってほしい。例えば、感染者や濃厚接触者と判定された場合の対応、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置発令地域では高校生の補助員は参加せず大人だけで大会運営を行うなどの方法も考えられる。また、10月27日から栃木県で予定されているプレ国体についても審議をお願いしたい。昨年度は全日本選手権を150日前、社会人選手権、女子全日本選手権を90日前に開催可否を決定としていた。

菊池理事：11月6、7日のマスボクシング大会についても審議をお願いしたい。

坂巻議長：世界選手権の代表選考についても考えなくてはならない。

仲間専務理事：今後の大会全てについて、日連の方向性を考えていきたい。

坂巻議長：医事委員会からお願いします。

仲間専務理事：医事委員会としても、基本的には開催を求めている。状況にもよるが、感染対策を行って実施することができればと考えている。感染対策については、PCR検査の範囲を拡大することは考えていない。現行のガイドラインをアップデートする方向で検討したい。個人的な考えとしてはゼロにすることを目指すと何もできなくなるし、日常生活もできなくなってしまう。できるだけ影響を少なくする方法を考える必要があるのではないかと思う。

坂巻議長：地方の状況についてお願いします。

吉沼理事：東京都は8月に選考会という形をとった。事前に抗原検査を行った。ブロック大会はPCR検査を行う。2週にわたるので、2週目に出る選手は2回のPCR検査を行う。トーナメントの工夫を行い1日の試合数を少なくする方法を考えている。

坂巻議長：ご質問等があればお願いします。

林田理事：審判部からお願いします。今後の全国大会は審判長1名、NTO6名、審判員16名で計画している。審判員の半数は教員であり委嘱をしても参加の許可が降りないことも考えられる。

豊田事務局長：今後の大会をまとめて決めるのは難しいのではないか。また、医事委員会の方で感

染者が出た場合の対応が従来のガイドラインに記載されているかを伺いたい。

仲間専務理事：議題としてはすべての大会についてと考えています。

従来のガイドラインには感染者が出た場合の対応については記載をしていない。大会ごとに定めを作るかガイドラインをアップデートするか、どちらでも対応はできる。

坂巻議長：今後の大会は進めていく形でよろしいか。

仲間専務理事：総務委員会からあったように、各大会の実情に合わせたガイドラインの作成が必要になると思う。補助員に高校生は参加させず大人で大会運営を行う等のメッセージを出す方向で議決ができればと思うが、ご意見をお願いします。

石橋理事：予選がある大会に関して、以前は何ブロック以上が欠場の場合は、というようなことを決めたとするが、今回はどういう判断をするかを決めておく必要があると思うが。

坂巻議長：まずは、大会を行う方向で進めるかどうかを決めて、その次に大会ごとに規定を定めるということがよいのではないか。

仲間専務理事：今後の大会は現時点では中止せずに、感染状況を注視しながら前向きに準備を進める。ということで採決をした後に規定を議論してはどうか。

坂巻議長：今後の大会準備を進めていくという事に反対意見の方は挙手をお願いします。
(反対意見なし) 満場一致で議決します。

中村理事：原案として、辞退・欠場・予選未実施で25パーセントを超える欠員が出た場合は中止という事で考えている。また、感染者や濃厚接触者が出た場合の対応も総務委員の原先生と相談しながら考えている。今後、実行委員会を開催して話を詰めていきたい。

坂巻議長：これは全日本選手権についてですね。

中村理事：はい。全日本についてです。

仲間専務理事：昨年度の高校選抜では3ブロックが出られない場合は中止としたが、代替大会を開催する話がでたので難しいと思うが、あまり厳しくしない方がよいのでは。

小山田理事：強化の立場からお願いになるが、全日本選手権について、予選会ができないブロックがあった場合、そのブロックに有望選手がいた場合は強化委員会から吸い上げて大会に出場させることができればと思う。検討してもらえないか。

坂巻議長：まずは全日本選手権に絞って考えていきましょう。

仲間専務理事：救済措置は必要かと思う。

豊田事務局長：選手選考委員会を開くなど、わかりやすい形で進めていただければ。

小山田理事：強化選手の中でも日連推薦に入っていない選手もいるので予選が中止になった場合は救済できればと考えている。

池端理事：ブロック代表を選考するということになると思うので、強化委員会から助言をいただいて、最終決定は各ブロックで行った方がよいのでは。

小山田理事：ブロックの代表を決めるということになるのか。

池端理事：もしも同じブロックから同階級で複数が選ばれると本来の予選の意味が失われる。

小山田理事：全階級ではなく強化選手だけというイメージで発言した。ブロック予選が中止になった場合は力のある選手は救済してあげたい。

仲間専務理事：たたき台がない状態では難しいので、ここでは救済措置を設けるということのみ決議してはどうか。

坂巻議長：救済措置に意義がある方は挙手をお願いします。

(反対意見なし) 満場一致で議決します。

豊田事務局長：実行委員会と強化委員会で詳細は話し合えばと思う。

中村理事：これは中止をする場合の判断を含むのか。基本的には開催に持っていきたい。

菊池理事：救済措置については実行委員会と強化委員会で決めてもらえば良いかと思うが、開催可否については理事会で決定するべきではないか。例えば3ブロックが出られない場合は緊急理事会を開催するなどを決めておく必要があると思う。

仲間専務理事：実行委員会で原案を出して理事会で審議する方法でもよいし、パーセンテージを決めて理事会を開く方法でもよいかと思うが。

菊池理事：3ブロックが選考できない場合は緊急理事会としていないと実行委員会で決めるのは難しいと思う。

坂巻議長：3ブロックが予選をできない場合は緊急理事会を開くということにご意見があればお願いします。

池端理事：賛成です。ただ、先の状況が読めないので、開催に向けて準備を進めるが、直前になって中止になることがあります。ということはすべての人に理解してもらう必要がある。今後の大会は日連主催の大会になるので、状況が大きく変化した場合などは、主催者である日連が理事会を開いて開催可否を決定する必要があると思う。

坂巻議長：全日本選手権については3ブロックが予選をできない場合に緊急理事会を開く。それ以外の大会についても状況が大きく変化した場合に緊急理事会を開くという事でもよろしいか。反対の方は挙手をお願いします。

(反対意見なし) 満場一致で議決します。

山本理事：ブロック予選が難航することが予想されるが、会場が使用できない、また審判が集まらないなどの場合の対応をとっているブロックがあれば教えていただきたい。

吉沼理事：日程を変えて開催することは不可能である。と考えている。

後藤理事：関西では、関西大学での開催は中止となり、大阪のジムを借りて行うことにしている。控室などが用意できないが会議室などを探している。

池端理事：総務委員会からですが、栃木県でのリハーサル大会は日光市実行委員会が準備を進めているが、開催可否の判断をいつまでにすればよいかという問い合わせが来ている。これについてもご意見をいただきたい。

仲間専務理事：直前でも中止になる可能性もあるので難しいが、日連としては中止することは考えていないが、行政の判断や指示には従います。という事になると思う。90日前や60日前で期限を切っても、判断が変わることが予想される。

林田理事：審判への委嘱状に、PCR検査を実施していることなど感染対策の概要を記載していただくことは可能なのか。

豊田事務局長：相談しながら委嘱状の内容を検討したい。

仲間専務理事：審判の確保にも工夫をするので、このような回答で良いか。

池端理事：選手のためにも開催可否を判断するタイミングを決めてもらいたいというのが実行委員会からの要望である。

仲間専務理事：日連の判断というよりは栃木県の受け入れが可能かということになるのか。

池端理事：最終判断は行政になると思う。その判断を何日前までにすればよいのかという事を求められている。

仲間専務理事：今すぐには決められないと思う。

吉沼理事：日連側に中止の判断を求めているのかと思われる。しかし先の状況が読めない中では、なるべく開催ができる方向で準備を進めるべきではないか。栃木県や日光市には迷惑をお掛けするが、そのように回答するしかないのではと思う。昨年度の三重県は無観客ではリハーサルにならないという理由で中止をしたと思う。今回はどの

ような判断が出てくるかわからないが、日連が中止にするという判断はなるべく遅くしたい。

池端理事：ありがとうございます。総務委員会にはそのように報告をします。

後藤理事：世界選手権の選考会が中止になった場合は選手選考が難しい。

小山田理事：男子は中止になった場合の案は作成している。選考会は行うつもりなので発表はしていないが、みなさんに納得してもらえる選手は考えている。

また、全日本選手権が中止になってしまうと、総務委員会からもあったように今後の強化や代表選考に影響が出るので、全日本選抜大会など少人数でも公式戦が行えるような形をとってもらえればと思う。来年度は中国でアジア大会も予定されており、選手選考をする必要がある。できれば世界選手権の代表選手と全日本選手権または代替大会でのチャンピオンでアジア大会の代表も決めたいと考えている。

仲間専務理事：できるだけ大会を開催する方向で進めていきたいと思っておりますので皆様よろしくお願いたします。

2) 審議・報告事項

・大学王座決定戦に対して駒澤大学が提出した嘆願書について

仲間専務理事：駒澤大学の選手に新型コロナのクラスターが出たとの報告により、8月17日に緊急理事会をして、駒澤大学の辞退ということで、8月21日の大学王座は芦屋大学の不戦勝となった。駒澤大学の選手から、8月20日に日本連盟に、後日、関西学連に大学王座の延期についての嘆願書が送られた。

小山田監督と樋山監督と話をしたが、駒澤大学の選手としては試合をしたかった気持ちが根底にあり、感情が拗れてしまっている部分がある。日連としては、両校の選手を交えて話す機会を作っていただき、且つ、駒澤大学が試合をしたい気持ちを芦屋大学が納得するのであれば、役員の派遣などに関しては協力したいという気持ちを出せば、選手の気持ちを汲めるのかと思うので、皆さんの意見を聞きたい。

菊池理事：8月19日に小山田監督からいただいている書類を見て、理解に苦しんでいる部分がある。理事会でしっかりと議論をして、結論として、議論の必要はなく辞退すると言ったにも関わらず、そして、総監督からは翌日に辞退届を出すようにとの話で、決議を行わずに終わったと思う。8月19日に送って来ている文書では、冒頭に延期のお願いと書いてある。理事会が終わってからこのような文書を出して来るということは、ちょっと違うのではないかと思う。この真意を聞かせて欲しい。

小山田理事：あくまでも、理事会では辞退するしかない話をさせていただいたが、そこを聞き入れてもらえなかったのが一番大きく、もう一度延期をしての開催について検討いただきたく19日に文書を送付した。

菊池理事：お言葉だが、あの時に言われたのは、辞退せざるを得ない状態ですということではなく、ハッキリと辞退しております、議論の必要はありませんとハッキリと言われたと思います。議事録を見直したがそのようになっていたし、中島総監督からも、結論は辞退しているということだったと思う。だから、辞退をせざるを得ない状態ではないと認識している。私はあの文書を見て、辞退せざるを得ない状態けれども、延期を望んでおられると感じていたので、議決をするべきと思っていたが、辞退をしますということで終わったはずである。そのことに関して、内容が変わってきていると感じている。

仲間専務理事：実際の経緯としては辞退であるが、諦めたくない思いから嘆願書を出したのであろう。実際に大学王座は、表彰まで終わっており延期という話にはならない。選手か

ら出ている嘆願書は一度取り下げてください、学校対抗戦が出来ないかという嘆願書に出来ないか。

菊池理事：私もそれはわかっている。20日に主将から来ている文書を見ても、理事会のあり方の説明が足りないのではないかと思う。次の段階で、戦う場の了承が得られるのであれば、協力することに賛成である。

その前にハッキリさせておかないといけないが、主将は、立派な文書を出してきているが、理事会の決定がおかしいのではないかという受け取り方が出来るような内容だが、決定はおかしくなかったと思うが、ご意見有る方はいらっしゃらないか？

石橋理事：嘆願書を見てはないが、それは選手から出てきたものか？

仲間専務理事：日連宛と芦屋大学宛に、主将の名前で送られて来ている。

石橋理事：小山田理事が、理事会でダメになったという報告をして、選手が動いたという形ではないのか。選手の声として上がって来たのではないか。私はそういう認識である。理事会では、ルールが大前提となっていたので、辞退せざるを得ない結果となった。選手は、また違った意見で上がってきた認識である。

菊池理事：ちょっと違う部分があるのではないか？この文書の中には、理事会のあり方についても言及がある。学生の意見が考慮されていないとか、理事会自体が不明瞭であるとか、これは選手に対しての説明不足ではないかと思う。小山田監督も理事だから、理事会として決めたことに関して、きちんと理解させる義務があると思う。

佐藤義理事：小山田監督は、この文書を出される時に既にこの文書に目を通していたのですよね？知らないうちに、学生が出したということではないのですよね？もし、知らぬうちに出了らされたとしたら、小山田理事はどの立場でその送付を許可したのかということが一番問題だと思う。私が同じ立場の監督や理事であれば、理事会で決定したことを組織の最優先事項として、ガバナンスという点において学生に納得の行く説明をすべきだと思う。学生の嘆願書があるから覆るだろう、出しなさいは筋違いかと思う。

坂巻議長：小山田理事何かありますか。

小山田理事：特にありません。

仲間専務理事：今日議論したいのは、理事会の決定事項は変えることは出来ないし、大会も終わってしまっているので延期は出来ない。きちんと話せば学生も理解できるのではないかと思う。感情的になっている部分もあるので難しいとは思いますが、芦屋大学側の立場もあり、その中で通る要望を違う形で出すようにしてはどうか。

この文書は取り下げて、試合をしたいという嘆願書を改めて出して頂けたら、日連としては何らかの協力が出来る。芦屋大学側も話し合いの場に来てくれるのではないかと個人的には期待している。小山田監督はどう思うか？

小山田理事：学生とよく話をしたいと思う。

仲間専務理事：日連も、どちらかの立場になって深く話をするのは違うと思う。双方が話をしてもまればその場を作りますということをメッセージとして出しても良いのではと考える。

安川理事：学生たちが自分たちで考えて出したもので、小山田さんとか大学の部分の責任でもないと思う。仲間専務が言われたとおり、芦屋大学と駒澤大学とが当事者同士で考えて、それに関して日連が協力を惜しまない形が良いのではないか。

佐藤義理事：試合も終わって表彰も終わってからの後出しでの嘆願書はないと思う。何かの大会を別の形で開催する希望を出すことは検討してしかるべきだと思う。

菊池理事：同感です。

坂巻議長：小山田理事、よろしいか？何かあるか？

小山田理事：特には何もありません。選手と話をしたいと思う。

石橋理事：書類が学生から出て来ることを考えた時に、理事会がトップダウンで決めるより、先に学生同士で話しをして、その結論を踏まえて理事会で決めたら良かったと感じる。時間がなかったり、急であったりしこともあるが、こういうことが無いようにしないと、選手ファーストを掲げる上では双方の気持ちを汲み取って理事会を開くべきだったと反省点が見られると思う。

仲間専務理事：日連はこういう考えだというメッセージを発信するのは大事だと思う。ご意見有れば言っていただき、なければそのような形で行けたらと思う。

内田会長：学生から出された文書に、皆さん目を通したか？しっかり目を通してから話した方が良いと思う。先ほどから色んな話しが出ているが、学生だから何を言っても良いという問題ではない。理事会自体が不明瞭であるとか色んなことを書いているが、不明瞭も何も、議事録はホームページに掲載されている。監督も総監督も理事会に出席している。そういった上で、学生がこのような文書を出して来ることは非常に問題である。学生が云々、指導者が云々言うて来たことに対応することは大切だが、その前（5日前）にコロナが出たと報告があった。和歌山県は開催に向けて、人員が不足する中5名でリングを組んでいる。それもコロナとか色々な問題があったこと。そんな中、中島氏から連絡があって緊急理事会を開催した。私もボクシングに関するルールを読んで考えた。そのうえで、守らないといけないルール、新しく作って行くルール、色々あると思う。今回話さないといけないのは、学生が出して来た文書の内容が、日本連盟は学生だからしょうがないということで流せないとは思う。確かに試合が出来なかったことは可哀そうである。先日のインターハイでも、熊本の選手、香川の選手はやむを得ず途中で帰り試合が出来なかった。色々な競技団体も試合が出来ていない。

理事会に学生連盟が出席していないからおかしいとか、理事会自体が不明瞭だとかいろいろ書いているが、理事会はそんなに軽いものなのか？

皆さん、もう一度この文書を読んでから議論した方がよい。

安川理事：ZOOMでは全て見えなかったもので、LINEか何かで文書をシェアして貰えないか。

安川理事：この文書に公式回答すると言うことで良いのか。

仲間専務理事：終わっているものに延期ということなので、一度取り下げて先ほど言った形で出して頂くのが良いのかと思うが、この文書に対して公式回答でも良いとは思う。

小山田監督が選手に話して、取り下げるのが一番良いと思う。改めて嘆願書を出すのが良いと思う。

佐藤義理事：もう一度前回の理事会の流れを確認していただきたい。樋山監督も出席されて、双方の意思確認はしたはずである。ガバナンスの中での理事会の決定機関の位置付けとは何なのかというところまで発展するのではないか。小山田監督は理事者であって、監督でもある立場である。理事会でどのような話しがされて、樋山監督がどのような話しをされて、その上で理事会決定があったことを、理事者と監督の立場の両面から選手に伝えなければならない。管理責任があるので、管理しなければならないと思う。

石橋理事：理事会の決定についてはそれでよいと思うが、今回はプロセスの問題だと思う。前回の理事会で、樋山監督は学生にはまだ何も言っていないと言うことであったが、ということは学生の意見を聞いていないことである。そういう中で話しが進んで行

くのは、学生を置き去りにした議論になっている。そういう意味でも、先に話しをしてからその意見を持って理事会で話しをした方が良かったのではないか。

内田会長：プロセスが大事だと今思ったが、この前の理事会に双方の選手が出ていたとしても、内容が変わったとは思わない。

今回、選手から出たこの文書の内容を小山田監督は知っていたのか？

小山田理事：知っていた。本人たちが出したいというので、私は学生の本意ということで出させた。すみません。指導不足と言われればそうかもしれないが、学生たちの思いを伝えるのであれば、その方法が一番良いと判断した。

内田会長：中島総監督はこの文書の内容を知っていたか？

中島理事：内容は知らない。しかし、子供たちの意見を云々言っているが、今回のこの発端は、コロナに起因した話しである。駒澤大学学生の不幸事だとか、別の件だとかだったらあり得ない話しである。日本中、世界中、どうにもならない病気でこういう結果となってしまった。だから、救済はないのかという学生の気持ちが出ているのだと思う。私もそう思う。会長が、ルール通りだから芦屋大学の勝ちになりますねと冒頭に言っていた。会長が、私はこう思うけれど、皆さんどう思いますかと聞かれたら、なかなか意見は言えないと思う。

内田会長：コロナだから延期は許されるのか？

中島理事：こういう事態だから、お願いできませんかという話しである。

内田会長：話しが違う。

中島理事：保健所が移動を禁止しているから試合は辞退せざるを得ない。 だけど、お願いとかの問題は、別に文書が出ていると思う。私がお願いする話ではない、選手や監督がどう思うかは、別の話しである。

内田会長：私も選手が悔しい気持ちは十分理解できる。でも、努力したから、頑張ったからすべてが報われることはないと思う。人生の中で、頑張ったから何でも成功して行くことではない。そんな時に、頑張っているのはわかるが、次があるじゃないか、仕方ないじゃないか、次を目指して頑張ろうと教えていくのが指導者や教育者だと思う。基本的に、ボクシングのルールがあって、健診計量をしないといけないものをコロナだから変えることにはならない。

1ヶ月前にコロナになったなら、議論は出来る。開催地にお願いして延期が出来るかもしれないが、1か月後に絶対にコロナにならないという保証はない。

そもそも、ボクシング競技を考えた時に、健診計量は必要である。

駒澤の選手も選手ファーストで考えれば可哀そうであるが、芦屋の選手も駒澤の選手も体重調整して体調管理をして努力して来ていると思う。私はそういうことを考えて、個人的な意見としてはルール通りだと言ったと思う。

石橋理事：前の理事会で話しが出たと思うが、大会の要項はなかったのか？

小山田理事：要項はあったが、競技規則という明記しかなかった。競技規則に則つてということだと思う。コロナに関しては特に記載はなかった。

石橋理事：コロナに関しての記載がなかったのは、我々主催者側の不備のような気がする。会長が言われるように、ルールは当然必要だが、ルール、ルールでやると不測の事態があったりしたら対応できない。特にコロナに関しては、ある程度予見が出来ることだから、前以って要項に入れるとかできたのではないか。日連の主催する大会については、事細かく書いておく必要があったのではないかと思う。

内田会長：石橋さんの言われる通りだと思う。決めておくべきだったのではないかと思うが、今回の王座を踏まえて、今後ルールを決めれば良いと思う。

仲間専務理事：PCR検査の陰性結果を提出しないと出場できないので、感染したら出場できない。明確な基準を作ることは、今後議論しないといけない。現行では、陰性を証明できないと出場できないのがコロナに対する対応だと思う。

菊池理事：大会要項に書くとしても、あまりにも詳細になり過ぎる。今回のように試合が近過ぎると回避できるはずがなかった。これが1ヶ月前で、2週間の隔離が終わったけれども、体調が調整できないから延期したいのとは違うと思う。もう一度言うが、私が言いたかったのは、理事会の中で監督と総監督が辞退の発言をされたから決議をしなかった。本来なら、あの文書からすれば延期のお願いだと思ったから、私は申し上げたし、他の方も延期に賛成する人が結構いたのではと思う。しかし、明確に辞退しました、議論の必要はありませんと言ったのは総監督と監督である。それを選手に伝えてくれているのか？それで議論が終わったことをちゃんと伝えてくれたのか？理事会の決定がおかしいようになっているが、総監督と監督が辞退したから、その話しは終わった。理事会が選手を抑えつけているように思われているように受け取ってしまう。どう考えても大会参加は難しかったから、私の判断で辞退したと、理解して欲しいと選手に伝えるべきではないかと思う。

仲間専務理事：小山田さんに確認したいのは、現行で出ている文書に日連から答えを書くのか？理事会のことは選手に納得して欲しいので、これは撤回して違う形で嘆願書を出すように小山田さんから選手に伝えていただくのが良いかと私は思う。

小山田理事：頭の整理がつかないが、菊池理事が言われたことで、理事会の時に私は何度も辞退をせざるを得ない事態だと説明したと思うが、それでも辞退してくださいという状況で、内田会長も言われていたので、本意ではないが、辞退せざるを得ないという気持ちを何度も説明した。もう一度皆さんに考えて欲しいのは、覆るとか覆らないとかではなく、先ほど、このコロナの感染が1カ月前なら延期もあるねと話もされているけど、医者や専門家が言うように、いつどこで、誰が感染するかわからない状況を皆さんに理解して欲しい。結局、延期を聞き入れて貰えなかった色々な状況は、コロナに感染した学生たちがダメだと言われているのと同じ状況になっている。そういう思いをさせたくない、なって欲しくない。でも、世の中でコロナに感染することは悪いことではないと思われる。理事会でも行ったと思うが、これがインフルエンザだと数日で回復する特効薬があり隔離も必要ない。でも、新型コロナウイルスは、今現在も実体がわからず、特効薬もない、日本政府も頑張っているが、ワクチンも100%均等に摂取できている状況でないことを前提にして欲しい。ルールは百も承知と理事会で申し上げたが、そういうことも踏まえて、理事会が本当に軽いものでないのであれば、色々な人の意見をもっと聞いて最終的な判断をするような形がとれるような理事会であって欲しい。やっぱり、内田会長の発言は重い。先ほど中島も言ったが、会長の言葉の影響は大きいと思う。私自身はそこがどうなのだろうと個人的に思う。あの時の樋山監督の発言も、取り合ってくれないという雰囲気であった。学生の意見は聞いていないと言っていたが、そんな中、私たちだけで決めてよいのかと思った。文書のことも選手から説明があったが、選手は理事会に出ていないし、話しを聞いてもいないので、文書にしたのであれば出しなさいと言った。そこは、私の指導不足であったと思うようにする。そこも含めて学生と話して、しっかりと議論したいと思う。何度も言うが、この実体のわからない新型コロナウイルスを一つの病気として見てはいけないと思う。それが今の世界の認識だと思う。それを内田会長は一つの病気と言ったので、私は違うと思う。一つの病気であれば、理事会に相談していない。相談せず、何とか治して、

当日ベストコンディションでなかったとしても出場していると思う。「たれば」の話になるが、実際に20日の時点でコロナに感染した選手のほとんどが熱も平熱に戻り、状態も良くなっていた。体重の調整はできなかつたかもしれないが、このことを黙っていて、当日会場に行っても良かったのかというと、それはできない。できないのがコロナの現状だと思う。だからこそ事前に相談した。理事会で皆さんに色々な意見を出していただき、学生の意見も踏まえた上で決めていただきたかった。もう一度学生と話しをさせていただく。申し訳ありませんでした。

中島理事：最後に一つだけ、保健所から許可が出て、一人も重症化することなく、二、三日前に学生26人全員帰省することができた。毎日毎日心配であったが、健康な状態で家に帰ることができたことが、我々が一番喜んでいることである。会長からは一度もそのような言葉をいただいているが、やっぱり指導者、教育者として大学の監督はやってくれているので感謝している。以上、報告しておきます。

中村理事：先ほどの小山田理事の話の中で、前回の理事会で要望が聞き入れて貰えなかったとのことだったが、しっかり議論したはずである。議論した中で、ああいう話になった。それは理解すべきである。私も意見を言ったが、駒澤大学の選手の考え、芦屋大学の選手はどうなのだろうと言った。数日前で延期？またやるのか？そういった難しさを私は言った。主将の嘆願書を見て、関東学連も何人かわからないが理解している。芦屋大学の意見は、文面では感じられない気がする。前回、議論して決めたことだから、やり直しはありえない。大変だけれど学生に理解させて欲しい。お互いで対抗戦や交流戦をやるのは可能だと思う。お互いでマッチメイクして日連がバックアップできる場所はしたら良いと思う。

今回の嘆願書は理解できないので、取り下げるのが筋かと思う。

菊池理事：樋山監督が選手の意見を聞いていなかったところだが、まだどうなるかわからない。だから、迷いが生じたらいけないから選手に言えなかったという話しだったと思う。そこは取り方が違うのかと感じた。

あと、インフルエンザと同様に感染症という意味では同じである。ただ、2週間の隔離あることに違いはあるが、同じ感染症という意味では学校に来てはいけない状況なので、黙って出れば良かったと言われたら絶対に許されない話しである。

そういった発言は控えた方が良い。

小山田理事：そういう意味ではなく、特効薬がないので隔離期間も長く、相談した時には既に絶対に出場できなかった状態を話したかっただけである。

菊池理事：黙って出場すれば良かったみたいに聞こえたけど違っていただけですね。すみません。是非、あの時の流れを説明していただいて、思うようにいかなかったかもしれないが、スポーツが教える挫折とかを乗り越えていくことを伝えていくことになるので、今回の理事会のことはしっかりと説明して欲しい。理事会は正常に機能してあの結論に至ったので、是非説明して欲しい。

安川理事：公式文書として出てきた以上は、公式的に事務的に回答するべきだと思う。

3項目一つ一つ回答できると思う。

佐藤義理事：オリンピックであつたらどうなのか？延期するか？しないだろう。これが、コロナのルールだろう。他の大会ならどうなる？全部受け入れていくのか？

理事会で決定したことに、あとから出て来るのはおかしいと思う。これからどうしていくのかという建設的な意見は当然重要である。コロナに感染してしまつたら、相手が感染するリスクがあるので、そこは自らが身を引いて隔離することに従うことが前提である。特効薬云々を論じるタイミングではない。

小山田理事：オリンピックは個人で、大学王座は対一のワンマッチが決まっている状況なのでお願いをした。ご理解いただきたい。

仲間専務理事：安川理事が言っていた、返事を出すことが大事なので現状の文書に一つ一つ回答させていただく。小山田監督からも学生に説明していただきたい。

池端理事：文書の宛名が、一般社団法人日本ボクシング連盟と芦屋大学の連名の宛名になっている。回答が別々で良いものか？日本連盟の回答と芦屋大学の回答が違うものになる可能性がある。既に回答が来ているのか、回答が来る予定があるのか、わかっているなら教えて欲しい。

仲間専務理事：樋山監督と何度か話しをしているが、終わっているものに延期となっているのでご立腹されている。芦屋大学がどんな回答をするのかわからないが、擦り合わせるより日連からの回答で矛盾はないのかと思う。

内田会長：皆さん長時間お疲れ様でした。

人それぞれ色々な考えがあると思いますが、私たちは理事ですから基本からズレないで、より良い方向に選手を導くような方向で話しができれば良いと思う。私も色々考えてみます。

以上